

審 議 経 過

No. 1

1. 開 会（副館長）

2. あいさつ（館長・委員長）

3. 議 題（進行：委員長）

（1）生涯学習の推進について

- ・資料に沿って説明（副館長）
質疑なし

（2）中央公民館（生涯学習センター）事業の実施状況及び令和8年度の取組みについて

- ・さわやか講座、子ども伊万里塾、中央公民館の利用状況について、資料に沿って説明（副館長）

（委員）全体として事務局的にはどういう感想を持っているか。

⇒（事務局）さわやか講座については、例年、同じ方が参加しており、中身については見直しを行なっている。

⇒（事務局）今年は、第6回目の講座では、初めて、いすの木合唱団にお願いして合唱を実施したが、参加者が多く、アンケート結果でも、「良かった」と参加者の方から評価を得ている。実行委員からの意見を踏まえながら計画している。昨年よりも出席率がよく好評だったと思う。

⇒（事務局）子ども伊万里塾については、例年、講座を5回、10回と開催していたが、なかなか参加率が上がらないため、令和7年度は大幅な見直しを行ない、1日だけの開催に変更をした。「伊万里の今と昔を知るバスツアー」を開催し、馬ノ頭、伊万里有田伝統産業会館、伊万里港コンテナターミナル、名村造船所に行き、子たちは実際の現場を見て、興味津々で、メモをとっていたので、夏休みの宿題に活用するのかなと思った。来年度も行先を変えて開催したいと思う。

（委員）参加人数が21名となっているが、内訳を教えてください。

⇒（事務局）小学生3年生から6年生にかけて募集をかけた。学年の内訳は、小学校3年生8名、小学校4年生は4名、小学校5年生は4名、小学校6年生は5名となっている。学校の内訳は、大坪小は12名、伊万里小は5名、東山代町は3名、波多津は1名となっている。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 2

（委員）定員は何名で募集をいるか。

⇒（事務局）定員は20名で募集をしている。兄弟で応募されていることが多かったので、地区ごとの参加人数の割合に偏りがある。

（委員）子どもたちが参加をして嬉しかった、楽しかったと思えることはあるか。

⇒（事務局）名村造船所で、バスの中から工場内を見学し、職員の方に説明してもらい、子どもたちは質問をしたり、船のペーパークラフトいただいて、子どもたちにとって面白かったと思う。

（委員）また来年度、定員を増やす予定あるのか。

⇒（事務局）定員は、受け入れ企業によるため、中型バスでまわるぐらいが、ちょうどいいので、変更の予定はない。

（委員）全体的に、実施されて良かったことは何か。

⇒（事務局）やはり、体験型の学習の効果は座学にはない魅力で、生の迫力があると思う。体験が生涯学習の欠かせない要素であり、今後の伸びしろにしたい。

（委員）去年の子ども伊万里塾は、全講座出席することで募集をかけていたか。

⇒（事務局）1講座でもいいということで募集でかけた。カブトガニと大川内山の2本立てであって、片方だけの出席でもいいということで募集をかけた。

（委員）今年参加人数が倍ぐらい違うので、外での視察と座学とは違いがあり、それが参加人数に大きくでているのか。

⇒（事務局）今年は、1日バスツアーで、朝集合で夕方終了、昼食付けであり、スケジュール的に親にとってみれば、魅力を感じ、参加させやすかったのかもしれない。

（委員）できれば、見学して終わりではなく、次に繋げることはできないのか。

⇒（事務局）発表の場を作っていければいいのかなとも思う。次に生かせるような形でやっていきたい。

（委員）子どもたちからの要望はなかったか。

⇒（事務局）特にはなかったが、知り合いの親から内容が同じでも来年度も参加したいと子どもが言っていたとは聞いた。

（委員）去年、特別支援学校高等部で森永太郎について話をしたが、非常にいい感想文を書いてくれて反応が良かった。子どもころから、郷土のことについて知り、誇りに思い、郷土愛を育てることは、なかなか難しい。子ども時から、教えこんでいくことは大事である。

（委員）講座については成功ということによいか。

⇒（事務局）前回より、参加者数は増えているので、今年度以上を目指して頑張っていきたい。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 3

（3）市民会館跡地利活用における生涯学習センターの今後の予定について ・市民会館跡地新複合施設整備について、資料に沿って説明（館長・副館長）

（委員）生涯学習センターの施設利用で、社会教育団体の場合は全額減免で利用しているが、市民センターでは有料である。調整をしないと、せっかく活動している団体が有料になると厳しい状態となり、一番心配な点である。歴史民俗資料館について、今後、行先は決まるが、コンパクト化とか国の方針に基づいてやられると思う。文化団体とかあるので市民の意見を聞いていただいて、一方的にならないようにしてほしい。プロジェクト推進課だけでなく、生涯学習課から現場の意見をきちんと反映させてほしい。

⇒（事務局）センター移転について、具体的な話はこれからになるが、唯一の公民館であるので、委員のご助言を今後検討に加えていきたい。プロジェクト推進課が進めているのは再配置、跡地の利活用なので、生涯学習課ではソフト面について主体性をもって進めていきたい。なるべく影響が生じないような環境を作っていくたい。

（委員）中央公民館の名称が10年以上続いており、無くなるかなと思ったが、他の公民館はコミュニティセンターになって、中央公民館の機能としては弱くなっている。条例的に存続しているから思うが、根本的に検討した方が良い。

⇒（事務局）名称の在り方についても検討している。市民目線からも分かりづらい。条例においての名称は中央公民館となっており、市民の認知度としては生涯学習センターであるが、2つの看板を掲げている。検討をして、問題がなければ、市民にわかりやすい施設として、認知度がある生涯学習センター1本がベターであると思っている。今後検討していきたい。

歴史民俗資料館について、再配置の対象となっており、令和10年度までは、現在の施設で営業し、その後、新しい施設を建設するまでの準備期間は休館となる。新しい場所に設置し、新しい歴史民俗資料館で営業を再開することになる。

（委員）新しい場所はどこになるのか。

⇒（事務局）建設予定地は、選定はこれからである。一つの候補地としては、伊万里保育園跡地があがっているが、具体的な選定は行っていない。歴史民俗資料館の建て替えは最初で最後であろう。狭小で、常設展示、企画展示が同時でできないので、準備期間で、ご意見をいただきながら進めていきたい。

（委員）生涯学習センターは仮の移転でないのか。

⇒（事務局）一時的な移転でなく、市民センターの2階に移転する。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 4

(委員)「せいら」はどちらに行くのか。

⇒(事務局)「せいら」の今後については、具体的な情報は持ち合わせていない。情報が入ったら提供したい。

(委員)学校教育課が管轄になり、そちらで連携しながら決めていかれると思うので、ご配慮いただけたらと思う。

(委員)「せいら」に関連して、青少年相談室についても、なるべく併設のかたちをとってもらいたい。

⇒(事務局)承知した。

(委員)保育園と複合施設が連携となっているが、どういうかたちで考えているのか。

⇒(事務局)抽象的な言い方になるが、コンセプトに多世代交流があるようである。複合施設に老人福祉センターも入るので、幅広い世代で交流しながらまちづくりを進めていくための施設であると思う。

(委員)民間の保育所になるので、施設を供用したり、一緒に使ったり、自由にできるのか疑問に思う。保育所も納得うえで移転されると思うが、公営の保育所でない民間の保育所になるが、老人の方と保育園の子と同じスペースにいることは、お互いとても意義があると思うが心配でもある。

歴史民俗資料館が気になっており、狭いので、この際、伊万里が大事にしているものを皆さんに楽しんで見て、理解してもらいたい。素晴らしい施設として展開していくためのチャンスとして利用していただきたい。もちろん、前から美術館構想があったが、皆さんの意見を聞いてやっていってもらえたらと思う。施設があることが財産である。良いものが出来たらいいなと思う。休館がしばらくあると聞いたが、その間、大川内の資料館とかで、小さな展示ができないのかなと思う。

⇒(事務局)新しい複合施設について、官民の交流、多世代の交流の視点でポイントは押さえていると思う。審議会の委員からご提案があったことは担当課に伝える。歴史民俗資料館は、これから動き出すと思うが、ご提案いただいたことについて、念頭に置きながら進めていきたい。

(4) その他

質疑なし

4. 閉 会 (副館長)

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。